※令和４年度以降入学生用

学校番号	2003

令和５年度　国語科

教科	国語	科目	現代の国語	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「探究　現代の国語」（桐原書店）						
副教材等	「基礎現代文　大学入学共通テスト対策新装版」（尚文出版） 「四訂版漢字検定 5～2 級対応常用漢字ダブルクリア」（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

基礎的な国語力を身につけることが目標です。漢字小テストを実施しますので、語源や字義も憶えるようにしましょう。また、授業の予習として、わからない語句を辞書で調べ語彙力を高めてください。授業では、説明を良く聞き、ノートはただ写すだけではなく、復習する時にわかりやすいように工夫しましょう。授業内容が理解できたかどうかは、定期テストだけではなく、日頃の発言や提出物、ノートの記述などを総合して判断します。
国語力は、反復と継続で身につくものです。普段の生活でも読書に親しみ、興味のある書籍があれば、たとえ１日 10 ページでも良いので読んで見ましょう。自然と知識が増え、読解力が身につきます。
授業で詳しく扱えなかった単元も定期テストにて出題することもありますので、長文の読解など日常的なトレーニングをしていきましょう。

２　学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の 各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元の学習内容</th><th rowspan="2">単元の評価規準</th><th colspan="3">評価方法</th></tr>
<tr><th>知(a)</th><th>思(b)</th><th>主(c)</th></tr>
<tr><td rowspan="8">前期</td><td>随想を読んで、筆者のものの見方や感じ方を理解する
［教材］
わからないぐらいがちょうどいい
最果タヒ
（p.8～p.11）</td><td>a：詩人でもある筆者ならではの特徴的な語彙や文章表現を探し、その効果を理解している。

b[読]：自分のことを他者に伝える際、「自分をデフォルメ」するとはどういうことか、正確に読み取っている。

c：言葉を通じた他者理解についての筆者の考えに、自らの経験を照らし合わせて自分なりの言語観を持ち、深めている。</td><td rowspan="8">ワークシート

定期考査</td><td rowspan="8">ワークシート

定期考査

ノート</td><td rowspan="8">ワークシート

小テスト

振り返りシート</td></tr>
<tr><td>二項対立的な内容を把握しながら、全体の構成を的確に捉える
［教材］
ふしぎと人生
河合隼雄
（p.12～p.17）</td><td>a：「　」が付されている語句について、その用法を理解している。

b[話]：「物語」についての筆者の捉え方に対する自分の考えをまとめ、それを支える適切な話題を設定し、表現に工夫を凝らしながらスピーチができる。

c：「ふしぎだな」という思いや、それに対する答えの出し方について考えることで、教材の内容への関心を高めている。</td></tr>
<tr><td>問いを立て、検討することを通じて、研究への態度を養う
［教材］
問いの立て方とオリジナリティ
上野千鶴子
（p.93～p.98）</td><td>a：「一次情報」「二次情報」の定義を理解し、自ら情報を分類できる。

b[話]：自ら問いを立て、その問いについて、本文で示された条件に照らして適当なものであるか、話し合いを通じて検討することができる。

c：「問いの立て方」や問いの「オリジナリティ」についての考えを自分なりに深め、探究活動などにおいても生かそうとしている。</td></tr>
<tr><td>現代の科学や社会のあり方について自分の考えを深める
［教材］
サイボーグとクローン人間
山崎正和
（p.66～p.72）</td><td>a：本文の記述と、写真や年表との対応関係を理解している。

b[書]：本文の内容を参考に、科学技術の発展が人の考え方に影響を及ぼした例を自分なりに考え、構成や表現を工夫しながら 600 字程度の文章にまとめることができる。

c：サイボーグとクローン人間について関心を持ち、両者の違いを理解しようとしている。</td></tr>
</table>

※令和４年度以降入学生用

学期	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
後期	論理の展開に着目して、筆者の主張を的確に捉える ［教材］ 経済の論理／環境の倫理 岩井克人 （p.100～p.106）	a：キーワードの意味を正確に理解している。 b[話]：本文発表後の地球温暖化防止をめぐる最新の世界情勢を調べたうえで、資料を効果的に用いながら討論している。 c：環境問題の原因と解決策を考えることで、教材の内容への関心を高めている。	ワークシート 定期考査	ワークシート 定期考査 ノート	ワークシート 小テスト 振り返りシート
	具体例を丁寧に読み取りながら論理の展開を把握し、筆者の主張を的確に捉える ［教材］ わかろうとする姿勢 鷲田清一 （p.162～p.169）	a：「全人的理解」「〈主体―客体〉の関係」「この非対称」など、注意を要する表現を理解している。 b[読]：ケアの現場で「全人的理解」が要請されるようになった背景を的確に捉えている。 c：本文中の具体例を通して、「わかろうとする姿勢」とは何かを考えている。			
	筆者の主張を読み取ったうえで、自分の考えを深める ［教材］ AIの判断 船木亨 （p.202～p.206）	a：同じ単語であっても、「　」の有無で異なる意味を付与することができることを理解している。 b[書]：人間特有の「正しさ」「未来」とはどういうものか、AIのそれらとの違いから説明文を書くことができる。 c：AI技術の現況や、AIを論じるうえでの特徴的な用語や論点について調べ、教材の内容への関心を高めている。			
	哲学・思想分野の評論に親しむ ［教材］ 歴史は「今・ここ・私」に向かってはいない 内田樹 （p.236～p.246）	a：フーコーの歴史観を本文の叙述に即して理解している。 b[書]：フーコーの歴史観を理解したうえで、自分の身近な出来事や事柄について、それが「『生成した』歴史上のその時点」にまで遡って具体的に考察して文章にできている。 c：本文の内容を踏まえたうえで、自分の身近な出来事や事柄を具体的に考察することを通じて、歴史に対する自分の考えを見つめ直そうとしている。			

※表中の観点について　a：知識・技能　b：思考・判断・表現　c：主体的に学習に取り組む態度

※単元の評価規準[ｂ]について…括弧内には[　話／聞、書、読　]のどれか一つを記入して下さい。

※年間の各領域時間数

・話すこと／聞くこと　…　（　２０　）時間

・書くこと　…　（　３０　）時間

・読むこと　…　（　２０　）時間